

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 778 号 令和 8 年 3 月

目次

○令和7年度第2回小動物講習会参加報告（防府支部 原口友也先生）	1
○山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会 令和7年度第3回会合報告（白銀政利監事）	2
○第67回山口県家畜保健衛生業績発表会開催報告（県庁支部 川分敬子先生）	3
○令和7年度牛伝染性リンパ腫対策講習会及び馬飼養衛生管理技術地方講習会を開催しました（山口支部 大村康一郎先生）	4
○令和7年度豊浦支部研修会を開催しました（豊浦支部 藤原優美先生）	5
○令和7年度第2回支部長会議開催報告（常務理事）	5
○リレー随筆（徳山支部 有吉陽向先生）	6
○おしらせ 北九州市獣医師会小動物講習会の開催について	7
○おしらせ 会員異動報告について	7
○事務局だより	7

令和7年度第2回小動物講習会参加報告

防府支部 原口友也
（ファミリー動物医療センター）

令和8年2月8日、YMfg維新セミナーパークにおいて、第2回小動物講習会が開催されました。

講師にはアジア獣医皮膚科専門医、EAR & SKIN Vet Pro（東京）、JASMINEどうぶつ総合医療センター（皮膚科・耳科）の今井昭宏先生をお招きし、「ジェネラリストのための犬と猫の耳科診療と耳炎攻略テクニク」というタイトルでご講演頂きました。

山口県獣医師会 中村 滋会長より開会の挨拶があり、大黒屋 勉小動物部会長による講師紹介の後に午前の部が開始しました。

講演は今井先生が神奈川県にあるJASMINEどうぶつ総合医療センターでの勤務と並行し、東京・大阪・福岡など日本中を飛び回り、獣医耳科診療の普及に尽力されている事や東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科で社会人大学院生として研究活動をされている事、プライベートではブラジリアン柔術の師範代である事まで親しみやすいお人柄が伺える自己紹介から始まり、その後「外耳炎編」として犬猫の耳の解剖から外耳炎の病態、耳科診療の手順についての講演がスタートしました。

講演は多数の写真や動画を用いて行われ、項目毎に明確なポイントがあり、「病態を推測するためのPSPPシステム」や「外耳炎の基本5型」、「耳鏡検査の実際」など視覚からスッと情報が入ってくるように組み立てられた、非常にわかりやすい内容でした。

物産アニマルヘルス(株)様によるランチョンセミナーを挟んだのちに、午後の部は「外耳炎の治療」と「中耳炎に関する総論」が行われました。午後の部も午前同様に「外耳炎の内科療法」や「半導体レーザーを用いた耳道形成内視鏡手術」など非常に興味深い内容についてわかりやすく講演して頂きました。

講演後は、防府支部の新田直正先生をはじめ、多数の先生からの活発な質疑応答があり、山口県獣医師会 白永伸行副会長からの挨拶をもって講習会を終了しました。

本講演会では全体を通して多数の論文や研究データを元にエビデンスに基づいた内容に加え、豊富な経験に裏打ちされた日常の診療に直結する情報、普段の診療で実際に今井先生が行なっている裏技まで惜しみなく披露して頂き、聴講した後に「明日から耳鏡を手に持ち犬猫の耳の中が覗きたくなる」内容の講習会でした。講習会の様子は県獣医師会のHPに掲載されておりますので、是非ご覧いただけたら幸いです。

最後になりましたが、氷点下と吹雪で足場の悪い中、山口までお越し頂き、寒さを吹き飛ばすような熱気溢れる講演をして頂いた今井先生、ご協賛頂きました物産アニマルヘルス(株)の皆様、開催にご尽力いただきました山口県獣医師会関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。



講演される今井昭宏先生



質問される脇本美保先生（宇部支部）



ランチョンセミナーに協力いただいた物産アニマルヘルス(株)の展示

山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会 令和7年度第3回会合 報告

監事 白銀政利

令和8年2月12日に第3回会合が県庁において開催され、県獣医師会推薦検討委員として出席しましたので、その概要を報告します。

1 令和7年度調査結果について

今年度の調査結果については、先月号で報告したとおり、2匹のネコで重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス遺伝子を検出という結果となりました。

令和7年度の事業報告書と啓発資料については、現在印刷中とのことで、2月中には関係機関への配布と県ホームページへの掲載がなされる予定とのことでした。

2 令和8年度の事業実施計画(案)について

今年度まで実施したSFTSの調査については、一定の成果が出たこと、山口大学等での検査体制が整ったことから、来年度は実施しないこととなりました。

来年度の調査は、下表に記載のとおり、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症とエキノコックス症を対象とすることが了承されました。検体数や調査期間については、今後関係機関と調整して決めることとなりました。

質疑応答の中で、検査対象動物については、咳・くしゃみ等の症状を有するものを中心に採取することが示されました。また、エキノコックス症については、愛知県での検出事例を参考に、陽性事例が出れば公表を検討するとのことでした。

その他、各委員から質疑がなされ、活発な議論が行われた検討会になったと感じました。こうした人の保健部門と獣医部門の情報・意見交換が進むことは、One-Healthの推進に大きく寄与するものと感じました。

対象感染症	動物種	検体	検出物	検体採取施設
コリネバクテリウム・ウルセランス感染症	ネコ	口腔拭い液	病原体	動物病院
				動物愛護センター
エキノコックス症	イヌ	糞便	病原体遺伝子	動物病院
				動物愛護センター

第67回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催

県庁支部 川 分 敬 子

(山口県畜産振興課)

令和8年2月9日(月)に、山口県教育会館において、第67回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催しました。

この発表会は、家畜保健衛生所等の職員が日頃の取組の成果を発表する場であり、今年、山口県で開催予定の中国四国ブロック家畜保健衛生業績発表会の山口県代表を選出する場でもあります。

選出された3演題は以下のとおりです。

- 1 経営改善に向けた乳房炎対策の取組事例（北部家畜保健衛生所 佐藤葵）
- 2 飼料用とうもろこしWCSの生産・利用に向けた取組支援（中部家畜保健衛生所 大石理恵）
- 3 山口県におけるシャモンダウイルスの動向と臓器等漏出液の有用性（中部家畜保健衛生所 鹿島貴朗）

当日御助言をいただきました山口大学名誉教授の田浦保穂先生をはじめ、助言者の皆様には、それぞれの専門的なお立場から、適切かつ貴重な御意見等をいただき、この場をお借りし、改めてお礼申し上げます。

関係者一同、本発表会の成果を今後の業務に活用し、本県畜産業の発展に努めてまいります。

1 経営改善に向けた乳房炎対策の取組事例：

北部家畜保健衛生所 佐藤葵、古澤剛

管内大規模酪農家において、関係機関とともに経営改善を目的とした現地確認及び検討会を実施。乳房炎に起因した除籍頭数及び体細胞数の増加が、経済損失に関わる大きな要因の一つと判明。原因究明のため、敷料（戻し堆肥）原料中の大腸菌群数の定点測定及び清拭後の乳房壁におけるATP検査を実施。使用直前の戻し堆肥原料中における大腸菌群数は少なく、敷料の品質は問題なかったが、一部糞尿により牛体が汚れやすい状況であることから、交換頻度増加を指導。ATP検査では、いずれも目標より高い数値であることから、乳房の消毒徹底や、ミルカーの追加導入及び作業動線の見直しによる省力化を指導。これらの対応を行うも、夏季にかけて乳房炎による除籍頭数及び体細胞数ともに、増加傾向が続いた。暑熱による影響が考えられるため、寒冷紗の設置及び送風機の適正配置等による、暑熱ストレス低減を指導。さらに、成績改善には中長期的な対応が必要であることから、通年の体細胞数20万/ml以下を目標に指導を継続。引き続き、搾乳衛生と環境の両面から乳房炎対策に取り組む。

2 飼料用とうもろこしWCSの生産・利用に向けた取組支援：中部家畜保健衛生所 大石理恵

輸入飼料価格の高止まりを受け、県産飼料への転換に着目。既存の耕畜連携協議会（協議会）の機能強化を図り、新たに酪農家からの需要が高い飼料用とうもろこしWCSの生産・給与実証を実施。耕種農家には生育調査を基に生産技術支援、酪農家には飼料設計を基に利用技術支援を行い、協議会には各種事業の活用を助言。令和5年度の1.1haから令和7年度は5.8haと約5倍に拡大。ほ場条件や作業体系、獣害等の影響を受け、目標収量3t/10aは未達。TDNは56.0～59.8%/DMと低かったが乳牛の嗜好性は良好。ロールにカラスが穴を開ける等、品質への影響を懸念。耕種農家は交付金収入のある春播種の利益を確保するも二期作目は収益減少。労働時間は2.72h/10aであり、水稲と比較して省力化を期待。酪農家は1日1頭当たりの飼料代が128円削減。輸入飼料の代替として有用だが、排水対策や適期作業、獣害防止、ストックヤードの確保、交付金等の活用による双方納得のできる価格設定が必要。

3 山口県のシャモンダウイルスの動向と臓器等漏出液の有用性：中部家畜保健衛生所 鹿島貴朗、福岡恒

2025年2月にシャモンダウイルス（SHAV）関与を疑う牛異常産が発生。2021年～2025年の未越夏牛293頭の血清において、2024年の11戸26頭及び2025年の3戸4頭でSHAV抗体陽転を確認。2024年は8月中下旬、2025年は遅くとも10月下旬に侵入と推察。2024年の1頭の血漿からSHAVを分離、M及びS分節の分子系統解析で国内分離株と部分塩基配列が96%以上一致、抗原性及び病原性に大きな変化は無いと推察。牛異常産病性鑑定において、血清等の採材困難な事例に遭遇、中和試験への臓器等漏出液の有用性を検証。胸水等及び臓器等漏出液を用い中和抗体価を比較、臓器等漏出液の中和抗体価は胸水等と同等以上を確認。臓器等漏出液で細胞毒性を検証、細胞毒性低減にはシート法による中和試験が有効。牛異常産の病性鑑定において胎子臓器等漏出液中にSHAV中和抗体を確認、原因究明に至る。臓器等漏出液は血清等の採材困難な異常産事例の中和試験に有用。

令和7年度牛伝染性リンパ腫対策講習会及び 馬飼養衛生管理技術地方講習会を開催しました

山口支部 大村 康一郎

(公益社団法人山口県畜産振興協会)

山口県畜産振興協会は、毎年この時期に、家畜衛生に関連する2つの講習会を開催しています。

今年も、新山口駅に隣接するKDDI維新ホールの会議室にて、1月22日に「牛伝染性リンパ腫対策講習会」、1月28日に「馬飼養衛生管理技術地方講習会」を、獣医師、飼養者及び指導者等を対象に開催しました。

「牛伝染性リンパ腫対策講習会」は、農林水産省の家畜衛生対策事業により開催しており、これまでも牛伝染性リンパ腫対策に関連するテーマで開催してきましたが、今年も、ウイルスを媒介する吸血昆虫に注目して、①住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社アニマルヘルス営業部 湯浅恵介氏による「畜産分野における吸血昆虫の生態と防除法」と、②山口県中部家畜保健衛生所 病性鑑定室 主任 福岡 恒氏による「吸血昆虫が媒介するウイルス性疾病について」という2つの講演で構成した講習会としました。

牛の飼養環境において、家畜糞や食餌残渣、あるいは牛舎周辺の土壌・雑草等の環境が吸血昆虫の発生源となることはよく知られていますが、湯浅氏は、対策する昆虫毎の殺虫剤の選択、散布時期に加え、意外と気が付かない散布すべき場所などをわかりやすく講演され、すぐに現場で活用できる対策を多く学ぶことができました。

さらに、福岡氏は、ランピースキン病やアルボウイルス感染症など、牛伝染性リンパ腫以外にも、吸血昆虫が媒介する注意すべき疾病について、県内の未越冬牛の抗体検査の成績を元に説明されました。昨年は、牛異常産をおこすアルボウイルス感染症が県内で動いていることにも触れられ、継続した牛異常産対策の重要性を認識したところです。

「馬飼養衛生管理技術地方講習会」は、公益社団法人中央畜産会の馬飼養衛生管理特別対策事業で開催する講習会で、今年も日本中央競馬会 馬事部獣医課から長島 剛史氏を講師にお呼びして「馬の歯牙疾患とデンタルケア＝日常管理で見るとべきポイント」というテーマで講演をお願いしました。

講演テーマを選定する際、馬の歯という限局的なテーマで皆さんが興味を持たれるか不安も感じていましたが、長島氏が講演で話されたとおり、馬の一生における歯の変化は大きく、また、JRAで日常的に馬の歯科診療に携わられている経験から、対処すべき症例が非常に多いことが伺え、興味深い講習会となりました。聴講された皆さんから質問も多く出され、思いの外反応が大きかったと一安心しています。

畜産振興協会では、今後も同様の講習会を開催します。獣医師の先生方の、積極的なご参加をお願いします。



牛伝染性リンパ腫対策講習会で講演される湯浅先生



同じく牛伝染性リンパ腫対策講習会で講演される福岡先生



馬飼養衛生管理技術地方講習会で講演される長島先生

令和7年度豊浦支部研修会を開催しました

豊浦支部 藤原 優美

(下関農林事務所畜産部)

2月7日(土)に豊浦支部研修会を海響館および下関グランドホテルにて開催いたしました。

海響館の先生方には検査室や解剖室などのバックヤードツアーを案内していただき、水族館動物特有の疾患や検査の実際について詳しく解説していただきました。会員からの専門的な質問にもひとつひとつ丁寧にお答えいただき、そのどれもが興味をそそられる内容でした。

驚かされたのはイルカの内視鏡検査です。馬用の内視鏡を用い、ハズバンダリートレーニングによって現在では鎮静なしでの実施が可能とのこと。イルカの協力は、日々の濃密なコミュニケーションの上に成り立つ信頼関係の賜物であり、スタッフの皆様の努力には脱帽するばかりでした。少しでも嫌がる素振りを見せれば、不快感の因子を徹底的に追求し地道に除外していく。その過程には根気と鋭い観察眼が必要であり、研究者魂を強く感じました。

その後の昼食会に、海響館の工藤健仁先生にご参加

いただき、食事中も魚類の麻酔と覚醒やエコーの機材談義など、話題の尽きない非常に有意義な会となりました。お忙しい中ご対応していただいた海響館のみなさま、本当にありがとうございました。写真は海響館休館中に話題となった、さみしがりマンボウがくれた強烈なファンサ壁面KISSです。ぜひ本物に会いに行きましょう。



令和7年度第2回支部長会議開催報告

常務理事 酒井 理

令和8年2月19日(木)午後1時30分から、県獣医師会館において、令和7年度第2回支部長会議が開催されました。

中村 滋会長から平素からの会務運営への協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の5件の議題について協議していただきました。

議題1 令和7年度事業実施状況について

議題2 狂犬病予防注射指定獣医師の新規指定及び解除について

議題3 動物病院間のネットワーク構築について

議題4 職域部会及び委員会委員の推薦について

議題5 表彰者の推薦について

議題1 では、年度後半の事業実施状況について報告しました。主な説明は次のとおり。

- ・本年1月末の会員数は、令和7年3月末の366名から1名増えて、367名となった
- ・本会主催の会議では、11月6日に第3回理事会を開催し、次回は3月12日を予定
- ・日本獣医師会関係では、全国獣医師会会長会議に中村会長、学術・教育・研究委員会に白永副会長が出席した
- ・県主催の動物由来感染情報体制整備検討会会議に、白銀監事が、家畜保健衛生業績発表会に中村会長が出席した
- ・本会主催の講習会は、獣医公衆衛生は、市民公開講座として、「災害時のペット対策」について、産業動物は、中国地区産業動物講習会として、「牛のクロストリジウム感染症戦略」についての講演会を開催した

・小動物講習会の1回目は「災害対策」、2回目は、「犬猫の耳の疾患」をテーマに開催した

・狂犬病予防集合注射は、10月末までの個別注射の実施頭数を追加して、集合注射が22,042頭、個別注射が22,637頭となっている

・令和8年度に動物病院が使用する狂犬病ワクチンを山口県動物医薬品器材協会を通じて発注した

・本会事務局に寄せられた動物医療相談は、10件

・「獣医事に係る要望・要請」では、自民党山口県支部連合会に、公務員獣医師の処遇改善についての要望を行い、県職員獣医師の初任調整手当の改善がなされた

・徳山支部会員を中心に、日本近代獣医学の開祖時重初熊先生の墓碑掃苔供養を実施した

議題2 では、昨年12月に開催された第2回小動物部会委員会において、山口支部の三好未緒先生が新たに指定獣医師に承認されたこと、5人の先生の指定が解除されたことを報告しました。

議題3 では、災害発生時等に備えるため、小動物部会委員会において、動物病院間のネットワーク構築に取り組んでいることを報告しました。

議題4 では、現在の委員の任期が令和8年5月までとなっている職域部会及び委員会委員候補者の推薦について依頼しました。

議題5 では、令和8年度の表彰（日本獣医師会会長、中国地区獣医師会連合会会長、山口県獣医師会会長）候補者の推薦について依頼しました。

最後に、白永伸行副会長の挨拶で閉会となりました。

リレー随筆

徳山支部 有吉陽向
(シラナガ動物病院)

シラナガ動物病院の有吉陽向と申します。大学6年間苦楽を共にし、昨年、年越しカウントダウンまで共に過ごした、NOSAI山口東部地区家畜診療所の壹岐眞帆さんからバトンを受けました。つい2年前のいまごろ国試を受けたのを懐かしく感じるくらい必死に走ってきましたが、日々自分の無力さを感じるおかげで、気持ちはすっかりまだ1年目です。

社会人になるとなかなか長期間ゆっくり…とはいきませんが、この冬少しお休みをいただき、北海道は阿寒湖に籠って来ました。北海道といえば、先日大雪の影響で7000人が新千歳空港で一夜を越し、全国ニュースになっていたのをご存じでしょうか。不運にも私もその中の一人となってしまいました。長い夜をやりすごすため、ソフトクリーム片手に北海道舞台の金塊発掘アニメを一気見し、旅のモチベーションアップを図りました。空港4階は床がカーペットになっており、暖房の効きもよく比較的快適に過ごせたので、今後新千歳で缶詰めにされた際には参考にさせていただけたら幸いです。とはいえ次の日振替便で釧路までたどり着き、市場で勝手丼をほおぼった瞬間の安堵感は忘れられません。さて、最終目的地を阿寒湖に選んだ理由はまりもではなく、氷上ワカサギ釣りです。普段は山口のダムでワカサギ釣りを十分楽しんでいます。湖の上で氷に穴を開けて釣る趣を感じたい、という浅はかな考えで北海道の奥地まで行きました。俗世を忘れて人里離れた温泉地で隠居したかったというのも事実です。阿寒湖は大荒れの札幌と違って天気にも恵まれ、氷も40cm以上張っており、釣り日和でした。気温は晴天でも-15度程度で、息をすると鼻が凍るのを感じましたが、不思議と寒さは感じず、早朝の山口市の方が凍えました。ワカサギは大きさも数も桁違いで、釣れすぎてやめるくらいでした。揚げたても最高に美味しく、いまだに家では再現できていません。今回の旅は最初から波乱の幕開けでしたが、地元の方たちの暖かさにも触れ、目的はすべて無事達成できました。こ

んなに楽しめたのも心強い病院スタッフの方たちのおかげであり、感謝が尽きません。今は知識、技術ともに未熟ですが、他の人にも安心して休んでもらうために、もっと精進していこうという心持になりました。

次は大学からの同期である、シラナガ動物病院酒井先生にバトンタッチします。



早朝の阿寒湖



人間を観察する野生タンチョウ

お知らせ

北九州市獣医師会小動物学術講習会の開催について

(公社)北九州市獣医師会から次のとおり開催案内がありました。

参加を希望される会員は、3月16日(月)までに、本会事務局に連絡してください。

- 開催日時：令和8年3月29日(日) 10:00～16:00(質疑応答含む)
- 開催場所：北九州市獣医師会館 2階会議室(北九州市八幡東区東田1-3-6)
- 演 題：「しょぼつき」から紐解く！
一般臨床で遭遇する眼科疾患の診断アプローチと治療
- 講 師：千村どうぶつ病院眼科センター 比較眼科学会 獣医眼科学専門医
平島 享 先生
- 受講料：3,300円
- ランチョンセミナー
演 題：動物用点眼薬について ー各製品の特性ー
講 師：千寿製薬株式会社 動物薬品事業部 坂上憲晃 先生

会員異動報告について

人事異動等で、会員の所属・住所(住居表示)・メールアドレス等の変更があった場合は、すみやかに所属支部事務局に「会員異動通知書」を提出してください。手続きが遅れると、(公社)日本獣医師会や本会からの通知等が届かなくなりますので、よろしく願います。

※様式は本会ホームページ(各種様式)に掲載しています。

今後の主な行事(予定)

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------------------|
| 3月12日 | ・第4回理事会(県獣会館) | 3月24日 | ・山口大学共同獣医学部卒業証書授与式(山口大学) |
| 3月13日 | ・獣医学教育改革推進協議会(山口大学) | 3月26日 | ・山口県動物愛護管理推進協議会(県庁) |
| 3月15日 | ・中国地区小動物講習会(米子市) | | |

事務局だより

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|-----------------|
| 2月8日 | ・第2回小動物講習会(YMfg維新セミナーパーク) | 2月19日 | ・第2回支部長会議(県獣会館) |
| 2月9日 | ・山口県家畜保健衛生業績発表会(県教育会館) | 2月24日 | ・会報編集委員会(県獣会館) |
| 2月12日 | ・山口県動物由来感染症情報関連体制整備検討会(県庁) | 5日・19日 | ・事業推進会議 |
| 2月16日 | ・日本獣医師連盟役員会・総会(東京都) | | |
| 2月17日 | ・やまぐち働き方改革シンポジウム(山口グランドホテル) | | |

次回編集委員会 3月24日(火) 13:30～

山口県獣医師会会報 第778号 令和8年3月10日(毎月1回発行)

発行所	(公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡本町2丁目12番8号)	編集責任者	豊川 剛
電話	(083) 972-1174 FAX (083) 972-1554	発行責任者	中村 滋
e-mail	yama-vet@abeam.ocn.ne.jp	印刷	コロニー印刷
http	://www.yamaguchi-vet.or.jp		